

鶴寿奨学会とは

昭和50年、本町太田出身鶴真吾氏(明治27年11月29日生)の篤志による金2,000万円を資金として、広川町鶴寿奨学会基金を設置。

高校生、高専生等、延べ725人に奨学金を給付

給付総額 4,224万円

平成22年高校授業料無料化に伴い給付停止。

江藤 町は、鶴寿奨学会基金2千万円を持っている。コロナ禍の今こそ、収入減になり困窮している高校生、大学生などに奨学金を給付してほしい。また、米飯給食分の給食費補助を求めます。さらに、就学援助を申請しやすいように、対象項目の追加や、申請場所に郵送等の方法を付け加えてほしい。町長 鶴寿奨学会は利子を図書購入に充てている。変更の考えはない。給食費は食材費だけを保護者から徴収しており補助の考えはない。就学援助については、郵送などの方法も検討したい。

子育て支援策

Q 学生に奨学金を給食費の補助を A 考えていない Q 就学援助申請の改善を A 前向きに検討する

防災対策

Q 河川の浚渫を A 県に要望している Q 避難行動要支援者名簿の周知を A 周知の取り組みを工夫したい



江藤美代子 議員

江藤 水害対策として、川の浚渫は有効な手段である。このことを県に強く要請してほしい。県はどのような対応か。避難の際、支援が必要な方を把握し、行政区ごとに支援できる「避難行動要支援者名簿」の登録を周知すべきである。町長 昨年度は、3か所の浚渫を行った。今年も区から要望を聞き、県に要請しているが、なかなか進まない現状である。安全な避難のために、パンフレットなど配布しているが、さらに周知するよう取り組みたい。

学校教育

Q 変わりゆく教育環境に今後の教育方針は

A 今後も少人数学級に取り組む



山下 茂 議員

山下 社会環境の変化により子ども達の描く将来像や教育現場に求められている児童像も変わってきた。グローバルな人材育成の為の英語教育やコミュニケーションに必要な表現力や主体性、また、AI、IT、DXに対応できるプログラミング教育だ。社会情勢や国の方針も変わってきたが、広川町の実情を踏まえた上で、広川町の対応を伺う。教育長 きめ細やかな教育環境整備事業については、学力の向上や学校生活におけるコミュニケーションを図る目的で行っている。令和元年度は、常勤講師が確保できず、実施できていない。本年度は非常勤講師を配置したり、学習支援員等も配置する事により、きめ細やかな教育環境整備を行った。

山下 スクールIGIA構想によりICTの活用がある。整備事業はこれからだが、プログラム教育に使えそうな3DプリンターやGoproの整備、パソコンの動画や音声を使っての英語教育がヒアリング等の上達につながると思われる。ICTの活用はどう考えられているか。教育長 まず各学校でしっかりとタブレットの機能を理解してもらい、研究し、活用をお願いしたい。

